

2022年度 障害児者一時預かり「サポートハウスわにの家」事業報告

1. 幼児小学生の活動（第2ハウス）

わにの家が障がいのある幼児と小学生のための支援を始めてから20年が経過しました。

2022年度わにの家の運営は、2020年度から始まった新型コロナウイルス感染症の爆発的流行がようやく下火になり、穏やかな日常の日々が回復してきた年となりました。

(1) 活動の様子

上半期はまだ新型コロナウイルス感染症への危機感が強く、遠出は控えていました。綱島のログハウス 横浜ラポール・東芝未来科学館などお気に入りの施設も予約制だったり人数制限があったりして、自由には使えませんでした。子どもたちの活動は、平和公園や等々力公園などに徒歩で移動して活動したり、車で太尾見晴らしの丘公園に行ったりしました。その中で、集団活動が苦手だった子どもたちが野球やサッカー等一人では出来ない遊びに取り組めたことは良かった点です。

また、全面改築のため利用できなかったリハビリテーションセンタープールが利用できるようになったことは、子どもたちにとって大きな喜びでした。利用については密を避けるため団体毎に区画を区切られ、利用も抽選になるなどの制限はありましたが、新しくきれいなプールで歓声をあげ伸びやかに遊ぶ子どもたちの姿は印象的でした。更衣室も使いやすくきれいになり、幼児用プールは小さくなりましたが、土曜日利用の幼児たちも利用できて気持ちよさそうな笑顔が素敵でした。



室内での活動は、日々の消毒換気に気を配りながら室内装飾づくりや夏のかき氷作り、グループで遊ぶトランプの神経衰弱等も楽しみました。勝ち負けにこだわる子どもが多いわにの家では、「勝負は運次第」の坊主めくりなどは、負けても笑って過ごすことができる寛容さを育てるのに効果的だったと思います。（全面改築されたリハセンプール）

個性豊かな6年生が多く、思春期にさしかかかっていて賑やかさが刺激になる子どもにとって3部屋を棲み分けられるわにの家は快い居場所になったと思います。

☆ 休日活動

月2～3回行っている休日活動は、わにの家開室以来維持し好評です。放課後の活動時間は短いので思い切った活動や遠出は難しいのですが、休日はゆったり活動ができます。

今年度も12月までは新型コロナウイルス感染症予防のため、公園での昼食はできず、新規の太尾見晴らしの丘公園・三ツ池公園など少し遠出をしても昼食はわにの家に帰って感染症予防対策をしながらとるなどの工夫が必要でした。ご家族の負担軽減や他のきょうだいと関わる時間の確保、また利用者本人にとっても楽しく安全な活動体験の場として大切に、月2～3回の開室に努めました。さらに学校の長期休暇の間は週1回休日活動と同じ時間帯で開室し社会生活の体験を広げる活動を提供しました。ブックオフめぐりなどを希望する子どももいてレトロな玩具が大受けでした。



☆ 卒業を祝う会

わにの家はスペースの関係で原則小学生までと利用制限を設けています。今年度の卒室生は10名でした。

お別れ遠足は例年雨が多い3月末を考慮し「しながわ水族館」を計画しましたが当日は見事に大雨でした。車での移動も大人数なので川崎市の福祉バスを利用しました。バスでの移動は新鮮で快適で、なじみのスタッフとのツーショットの笑顔は良い思い出になったと思います。その後わにの家で保護者の方にも参加して頂きささやかなお祝いの会を開催しました。幼児から長く通っていた子どもが多く思い出が一杯詰まったアルバムを渡すことが出来ました。

(2) 保護者との交流

「保護者会」や家族参加の「わにっこフェスタ」なども、一緒に子育てする大切な場でしたが、大人数の集まりの制限、学校施設の開放中止などで、今年度も大きい行事は中止せざるを得ませんでした。昨年度は自粛していた個人面談は、希望されるご家庭には前期・後期実施することが出来ました。進路に関わる事、本人の課題等面談内容は多岐にわたりました。話し合いの時間がゆっくりとれたことは良かったと思います。また、毎月発行の「わにっこ通信」でご家庭の取り組み等をたくさん紹介し、ご家庭同士の繋がりを保つようにしました。

☆ 2022年度の実績

<登録メンバー（3月末・含成人）>

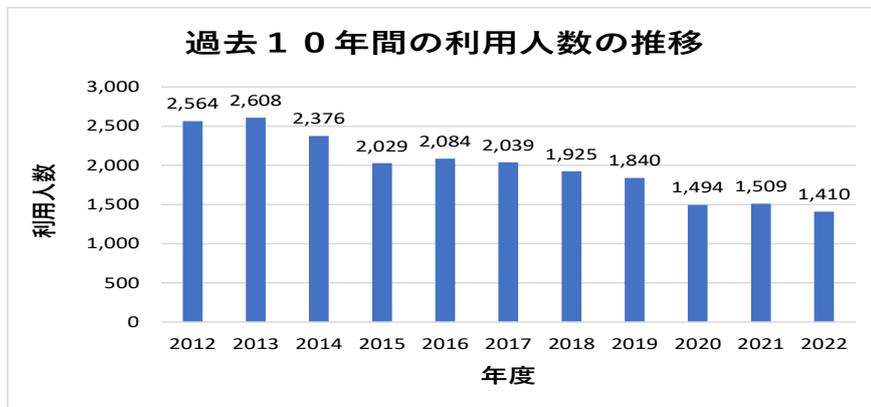
☆幼児8名 ☆小学生32名 ☆中学生1名 ☆高校生1名 計42名

在住区内訳	幸 区	中原区	高津区	合 計
	2	36	4	42

<利用者数>

利用者延人数 2022年度 1,410名（2021年度比 99名減）

*利用者は登録者、延べ利用者数共年々減少しているが、2021年度は新型コロナウイルス感染症による利用控えが多かったため減少幅はやや緩やかであった。



<日常の活動内容>

☆幼児（10時～12時30分）

月・火・水・金と月2回の土曜日
<ul style="list-style-type: none"> ・10時～ 室内での自由遊び ・11時～ 散歩や近隣の公園 ・12時20分 おかえりの会 (手遊び・本の読み聞かせ等) <p>*土曜日は幼児のみの利用日。弁当持参。 活動終了13時30分。</p>

☆小学生（放課後～17時）

月～金曜日（火曜日～18時）
<ul style="list-style-type: none"> ・放課後～16時 自由外遊び 等々力公園・平和公園・多摩川台公園・橋公園等 16時～ おやつと室内遊び ・16時45分～ おかえりの会 (活動の報告と帰りの歌など)

☆小学生休日・夏休みの全日活動の日

10時～16時（昼食持参）

活動内容 その都度利用者の要望を聞きながら計画。遠方の公園やプールなど。

<スタッフの体制>

登録15名（内 青年担当 1名、事務専任 1名）

* ほぼ一週間継続で勤務しているスタッフ3名。その他は曜日限定で勤務。

* 研修の充実

2022年度も新型コロナウイルス感染症蔓延のため一堂に会して研修を行うことが出来ませんでした。ZOOM開催の研修会も増えたので、関連の研修会・講演などは紹介するようにしました。また、活動開始前や日常活動終了後、清掃をしながら日々の活動の振り返りをしています。活動で担当した児童にヒットしたかかわり方、注意すべき事柄などを記入し個別ファイルに挟み全員に伝えるようにしました。お迎えの保護者とスタッフの情報交換も貴重な研修の機会でした。

* 待遇改善

毎年、最賃法により時給を改定しているほか、対応により配慮を要する児童を担当しているスタッフには加算をつける等若干の待遇改善を図っています。利用児童の減少に伴う収入減にもかかわらず、スタッフは子どもに触れ合う喜びを糧に仕事を続けてくれています。スタッフの生活保障が難しいわにの家ですが、今年度もスタッフの熱意に支えられて温かい雰囲気の中で無事一年が過ぎました。

<2023年度に向けて>

2020年2月頃から始まった新型コロナウイルス感染症は5月より五類扱いとなることで、感染予防対策は個々の事業所に任されることとなりました。活動範囲は格段に広まっていくと思います。利用者の状況は、2022年度末10名の小学生が卒業し、新1年生は1名なので、大幅な利用者減が明らかになっています。見学の問い合わせは若干あり、例年4月は利用者が少なくその後徐々に増えていきますが、スタッフの就労保障にはほど遠い状態です。

しかし、2023年度は運営等について大幅に変える予定はなく、どんな障がいの方にも快適な居場所、大好きな居場所になるようスタッフの創意を生かしながら事業を進めていきたいと思いません。

2. 成人の活動（第1ハウス1階）

<2022年度の活動>

2021年度後半から通学支援を利用して隔日で登校することができるようになった高校生の本人の要望で、障害児者一時預かりの活動として学習支援を始めました。その後体調不良で活動休止期間がありましたが、2022年度後半から諸般の事情で週一回の預かりを再開しました。スタッフがついて短時間ですがシュレッダー作業など就労に向けた活動を提供しました。

<2023年度に向けて>

わになろう会発足当初の理念の通り、地域の障がいのある方の緊急な要望に対して制度の運用範囲で応じる体制は維持していきたいと考えています。2021年度対応を始めた高校生は社会人になりましたが、本人の生活環境が整うまで支援を続けます。